

平成 29 年度 野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業 目標管理シート

1 目標（何を目指すのか。）

【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である野鳥園臨港緑地の湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供する。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供する。

3 平成 29 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的な管理を実施する。

- ① 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加による湿地保全作業の実施

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての湿地の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成
- ② 広報活動の充実

※野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地と表現する。

※本文中で野鳥園臨港緑地は野鳥園と省略して表現する。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～		
計 画	<p>将来像 (平成31年 3月末時点)</p>	<p>1. シギ・チドリ類の種数 ^{*2)}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春(3～5月):シギ・チドリ類の渡来種数 22種 ・秋(8～10月):シギ・チドリ類の渡来種数 24種 <p>湿地の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。</p> <p>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数:60種</p> <p>湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</p> <p>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。</p> <p>^{*2)} シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</p>
	<p>現状 (課題設定の 根拠となる現状)</p>	<p>日本国内の他の湿地と同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。しかし、野鳥園は、湿地の保全・再生と順応的管理を開園(1983年9月)以後から継続して実施しており、生息環境が減少または悪化するシギ・チドリ類の大切な中継地となっている。</p>
	<p>要因分析</p>	<p>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</p> <p>2. 野鳥園の湿地の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 表層の有機物堆積層の流出 2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少(北池) 3) 一部の砂質化 4) 表層のバイオフィルムの減少 5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大(地盤は年間に平均1センチ低下)など
	<p>手法 (上記要因を解消する ために必要なこと)</p>	<p>有機物が堆積しやすく多様な餌生物が多く生息し、多くの渡り鳥が飛来して、安心して採食でき休息できる環境づくりを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池に拡大するカキ礁の手入れ作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。【築港中学校・海遊館(市岡高校)との共同プロジェクトとして実施】 2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 干潟内への落ち葉投入については、水質や底質の調査等を継続して実施するなど経過を観察しつつ、砂質化の抑制・底層生態系の創出を図る。落ち葉は野鳥園の緑地部分で採取したものを活用する。 3. 塩分の測定 塩分測定を継続して実施し、湿地環境のモニタリングを行う。

重点的に取り組む課題 ー (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成●年●月●日）			年度報告（報告日：平成●年●月●日）					
取組事項			取組事項					
数値目標	計画			実績		振返り		
	項目	最終目標	H29 年度目標	中間実績	H29 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H28 年度実績
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26 回	26 回					23 回
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施					実施
	環境省（モニタリングサイト 1000）への情報提供	実施	実施					実施
湿地再生 PT	湿地再生 PT の開催回数（資料整理や調査含む）	2 回	2 回					1 回
底生生物調査	底生生物調査回数	2 回	2 回					2 回
	塩分の測定回数	3 回	3 回					3 回
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3 回	3 回					2 回
	ボランティア参加人数	400 人	400 人					450 人
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場づくり等の実施回数	5 回	5 回					9 回
	カキ礁の手入れ作業の実施	実施	実施					—

中間評価（評価日：平成●年●月●日）		年度評価（評価日：平成●年●月●日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込
自己評価 （課題と改善策）		自己評価 （課題と改善策）	
委員評価		委員評価	

4 重点的に取り組む課題 – (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画し、実施する。 2. 専門的知識を有する多数の人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。
	現状 (課題設定の根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度実施した観察会のアンケートでは、平均して約2割～3割の参加者が「やや不満」「普通」と回答している。 2. 学校との連携については現在港区にある築港中学校と連携している。
	要因分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習会の満足度が当日の自然環境(野鳥の飛来状況等)に左右されやすい。 2. トータルコーディネイターや野鳥ガイド等の専門的知識を有する人材が不足しており、一人一人の負担が大きい。 3. 地元住之江区内の学校との連携ができていない。
	手法 (上記要因を解消するために必要なこと)	<p>環境学習について、参加者がより観察会を楽しめるように環境学習会の内容を充実し、定員充足率の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境学習の手法の改善についての検討 <ul style="list-style-type: none"> ・野鳥観察会時にも湿地部を活用するなど内容を充実し、定員充足率を向上させる。 ・学校・海遊館と共同で実施するカキ礁移動作業は作業完了後の翌月に生き物調査も行い環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。 ・アカテガニ観察会については、参加者がより身近に観察できるように手法を検討する。 2. 野鳥ガイドの充実 野鳥ガイドの増員を図る(現在21名⇒目標26名)とともに、全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。 3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進 地元住之江区内の学校や市民に環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように働きかけを行っていく。 4. トータルコーディネイターの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネイターと段階的に人材育成できるよう、まずはリピーター確保の取り組みから実施していく。 ・また、年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについても検討を進めていく。

重点的に取り組む課題 ー (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

中間報告（報告日：平成●年●月●日）			年度報告（報告日：平成●年●月●日）					
取組事項			取組事項					
具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	H29年度目標	中間実績	H29年度実績	最終目標比較 増△減	年度目標比較 増△減	H28年度実績
野鳥ガイド	実施回数	40回	36回					36回
野鳥の会探鳥会	実施回数	12回	12回					12回
野鳥ガイド	登録人数	40人	26人					21人
	一人で解説できる野鳥ガイドの人数	25人	20人					15人
環境学習会	単発観察会実施回数	6回	10回					10回
	環境学習会初参加者数	30人	30人					45人
	各環境学習会の定員充足率	平均100%	平均80%					平均56%
学校を対象とした環境学習会	学校を対象とした環境学習会の実施回数	2回	1回					0回
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	実施					参加呼びかけ
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5人	4人					4人
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換回数	3回	2回					2回
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施回数	2回	2回					0回

中間評価（評価日：平成●年●月●日）		年度評価（評価日：平成●年●月●日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込
自己評価 （課題と改善策）		自己評価 （課題と改善策）	
委員評価		委員評価	

4 重点的に取り組む課題 – (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民に認識してもらうことで、自然環境への理解を深めてもらう。
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> 野鳥園で開催している環境学習会について市民の認知度が低い。 府下では年間で最も多くの野鳥 (150 種) が見られること、特に湿地では年間 90 種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。 昨年度の環境学習会の定員充足率が低い。
	要因分析	市民への広報不足。
	手法 (上記要因を解消するために必要なこと)	<p>効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民に対し野鳥園で実施している環境学習会などの情報を発信する。</p> <p>※平成 29 年度の春の野鳥かんさつ会では、新聞 2 紙、区広報紙 3 紙 (3 区) に掲載した結果、定員 50 名に対し、70 名ほどの申込があった。また、参加者の 55% が新聞や広報紙の紙面を見て参加しており新聞や広報紙の効果が大きかった。</p> <p>※平成 29 年 4 月、4 社の新聞紙面に野鳥園の特集記事が掲載された。</p> <p>1. 効果的な情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。また、地元住之江区民の方に野鳥園の魅力を知ってもらえるよう、区広報紙への特集記事 (施設案内・事業案内) の掲載にむけて住之江区役所と連携・調整を図る。 ホームページや、ブログやスタッフ個人による facebook 等の SNS を引き続き活用し情報発信を行う。 新たに展望塔に設置する下敷きや野鳥園パンフレットの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。 年間 4 回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を新たに発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しで配布するほか、試行的に環境学習会参加者の希望者に、野鳥園だよりの送付やイベントの案内を適宜実施する。 <p>2. 大阪港開港 150 年記念事業への参画</p> <p>野鳥園開園以来、大阪港の環境保全に関わってきたことから、本年実施される大阪港開港 150 年記念事業に参画していく。</p>

重点的に取り組む課題 ー (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成●年●月●日）			年度報告（報告日：平成●年●月●日）					
取組事項			取組事項					
具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成 29 年度目標	中間実績	平成 29 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	平成 28 年度実績
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施					実施
	各イベント案内	実施	実施					実施
さまざまな広報媒体の活用	大阪市 HP への掲載回数	2 回	3 回					3 回
	区役所へのイベントチラシ配備（回数）	実施	2 回					実施
	区広報紙への記事掲載回数（特集記事含む）	1 回	2 回					1 回
	新聞への記事掲載回数	2 回	2 回					1 回
	ブログによる情報発信	実施	実施					実施
展望塔内の展示スペースの活用	展示スペースの更新回数	4 回	3 回					3 回
	野鳥写真の掲示回数	3 回	3 回					3 回
	野鳥ガイド時のアンケート	実施	実施					実施
	下敷きやパンフレットの作成	実施	実施					—
リピーター確保の取り組み	野鳥園だよりの配布回数	4 回	4 回					0 回
	希望者へ環境学習会の案内	実施	実施					—
	野鳥園サポーター制度(仮称)の導入に向けた検討	実施	実施					検討
大阪港開港 150 年記念事業	大阪港開港 150 周年事業へのイベント参画	実施	実施					検討（参画に向けた調整）

中間評価（評価日：平成●年●月●日）		年度評価（評価日：平成●年●月●日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込
自己評価 （課題と改善策）		自己評価 （課題と改善策）	
委員評価		委員評価	